



にじのはし幼稚園 園だより

平成27年 3月号
港区立にじのはし幼稚園
園長 新井智子



言祝ぎの春

園長 新井智子

三寒四温の言葉通り、寒さに震える日と並んで、穏やかで暖かな日差しに包まれる日が増えてきました。園庭にはクロッカスやオキザリスの黄色い花、畑にはキヌサヤの白い花が可憐に咲いています。3歳児が、幼稚園のにじっこ池にカエルを見付けました。冬の間身を潜めていたメダカも元気よく泳ぎ、幼稚園のあちらこちらで春の息吹を感じます。

2月上旬、幼稚園の大きな行事である「にじっこ発表会」がありました。それぞれの学年の集大成である表現は、皆様に見守られながら、普段通り、いえ、それ以上の力を発揮し、大成功のうちに幕を閉じました。

3歳児は役になりきって、先生のリードでやりとりをしたり、リズムに合わせて踊ったりすることを楽しそうにのびのびと表していました。客席に思わず声をかけてしまうのも3歳児ならではのでしょう。ほのぼのとした雰囲気の中、とても心地よさそうでした。

4歳児は、物語のストーリーと役ごとに工夫した表現を一生懸命演じました。恥ずかしがり屋さんが多い4歳児なので、照れからふざけてしまうのではと心配していましたが、当日は劇に集中し、堂々としていました。友達と呼吸を合わせ、みんなで一つのことに取り組む姿勢に成長を感じました。

そして、5歳児。劇は、題材、台詞、ストーリー展開から道具に至るまで幼児が考え、教師とともに実現に向けて工夫を凝らしました。役決めや表現をどのようにするか、その過程では葛藤やトラブルもありました。『見ている人が感激して、涙するぐらいの最高の劇にする』が、5歳児の共通の目的でした。当日の無心で真剣で、それでいて楽しげな劇は、見ている人の胸を打つ素晴らしいものでした。

有り難かったのは観客の皆様の大きな拍手です。昨今、写真・ビデオ撮影に熱心になるあまり、静かなエピローグになり、幼児が拍手や歓声に胸を躍らせるということが少なくなってきました。今回は、皆様から大きな拍手をいただき、幼児は心から自分たちがしたことの喜びと充実感を味わったのではないのでしょうか。

もうすぐ5歳児は修了という巣立ちの言祝ぎ(にとほぎ)のときを迎えます。年中児や年少児も喜びいっぱいの進級です。言祝ぎは転じて寿という文字になります。言祝ぎには、『おめでたい言葉を口にすると幸せがやってくる』という意味があるそうです。拍手が幼児の喜びを倍増させた劇と同じように、「おめでとう」「大きくなったね」「嬉しいね」「小学校楽しみだね」と声に出してお祝いし、笑顔で喜び合う幸せいっぱいの春にしましょう。

1年間、保護者の皆様や地域の皆様には、暖かなご支援とお力添えをいただき、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

